



おたより

代表理事「子育て家族を支える使命を再確認の昨今」	……………	P1
「NPプログラム実践ガイドがいよいよ出版！！」	……………	P1
「子育て親レインボウを下さる多くの子どもに」	……………	P3
「赤ちゃんとのコミュニケーション～赤い羽根共同募金助成～」	……………	P4
「子育ての楽しさがくらむ」～0歳の赤ちゃんとのコミュニケーション～	……………	P5
インフォメーション「子ども家庭リソースセンターからのお知らせ」	……………	P6



「子育て家族を支える使命を再確認の昨今」

理事長 福川 須美

今年も早や残すところ2か月、みなさま、お元気でいらっしゃいますか。このところ、日本列島は、各地の地震、火山の噴火、台風の被害など、途切れる間がないほど大きな災害に見舞われています。被災地のみなさまには心よりお見舞い申し上げます。しかも復興のための国の支援は遅れがちで、もうすぐやってくる寒い冬が心配ですね。最近では気候も異常で、自然災害も頻発し、ついに地球環境そのものが変わってきたように思えます。

なんだか子育ても普通に親になることが難しい、親であるための基盤が壊れてきているような気がします。日本では少子化傾向は相変わらず、児童虐待はうなぎのぼり、2015年の児童相談所の虐待相談件数はついに10万件を突破しました。国も今年6月には児童福祉法を一部改正、児童虐待対策の強化や社会的養護の充実を盛り込みました。そして第1条、第2条の児童福祉の理念の部分にも手を入れて、児童の権利を明確にしました。親の子育て責任も「第一義的責任を負う」と明記されました。

しかし子育ては親だけではできません。とりわけ子どもという、非効率的で、面倒で、思い通りにはいかない存在を受け入れ、速く、無駄なく、効率よくという世の中に揉まれながら育てるのは容易なことではありません。子育て家族を支える子ども家庭リソースセンターの使命もますます重要性を増しています。各事業を着実に実施しながら、一緒に活動して下さる仲間を増やしていきましょう。



NPプログラム実践ガイドがいよいよ出版！！

斉藤 まり子

約1年前の10月のトポスの会で、「養成講座を終了した後で、ファシリテーターとしての実践の機会をどう作ればいいのか分からない。NP実践のための手引き本のようなものが必要ではないか」との提案がありました。賛同する人が多かったので、さっそく「NP実践ガイドブック編集委員会」を立ち上げることになりました。

編集代表に「トポスの会」運営委員の大内克夫さんが手を挙げてくれたことで弾みがつき、編集委員としてトポスの会運営委員のほか、さいたま県在住のファシリテーターがメンバーとなることが決まりました。

ちょうど1年前の11月1日に編集会議1回目が王子の事務所で開かれました。伊志嶺さんには監修者をお願いすることになりました。

まずは、本の全体構成をどうするか議論から入ることに。編集委員はNPプログラムの経験者ばかりなので、各自の経験談を話し出すと参考になることばかりであり、それはそのまま、それぞれの人に文章にまとめてもらうことになりました。

ほぼ毎月1回は編集会議を開き、話し合いを重ね内容を詰めていき、体験者へのアンケートのお願い、回収、集計、読み取り、実践記のお願いや聞き取り、具体的な企画・実施の手引きの原稿作成、統計資料作成用の資料作り作業などなどがありました。これらの仕事を編集委員メンバーが分担し、あるいは協働し、編集長がそれを取りまとめるという形での編纂活動です。いいものを作ろうとの思いはみな同じで、その思いがひと月ごとに少しずつ形になっていき、「いいガイドブックができる」との手応えを感じるようになりました。

子育て研究リソースセンター（KRC：子ども家庭リソースセンターと子育て支援研究センターが共同で立ち上げた団体）が、NPプログラム養成講座を開講するのが10年ほど前になります。その時からKRCの事務局長として、養成講座に関することすべてを管理してきた大内さんが「これまで気になっていたことの総決算」として臨んだ編集代表でした。力が入る訳がそこにあると納得します。沈着冷静な方だから仕事はきっちりとまとめてくれます。今回もすべて一人で原稿の整理をしてくれましたが、「腱鞘炎がみ」とちらっと本音をもらすこともありました。

1年近くかかったガイドブックがそろそろ出版の運びとなり、本を手取る日が待ち遠しいこの頃です。そしてファシリテーターの皆さんの、NP実践への本当の意味でのガイドブックになることを祈ってやまない編集委員一同です。



～NPファシリテーター経験者から聞く～ <コ・ファシリテーターで行うプログラム>

皆さんはNPプログラムを実施する時は、コ・ファシリテーターですすめていると思います。その相手の方とはどんな関係でしょうか？養成講座と一緒に受けた方ですか？一緒に活動しているお仲間ですか？それともリソースセンターの紹介ですか？いろんな関係があることと思います。では、あなたがコ・ファシリテーターとしてプログラムしてみて、どんなことを感じましたか？



<経験者談より>

10年前を振り返ってみると、その頃はNPを実施する時は、まだファシリテーターの数も少なく、そのほとんどが認定を得るためのいわゆる実習生でした。お互い新人同士のコ・ファシリテーターと言う訳です。ですから、いくら養成講座で、なぜNPはコ・ファシリテーターでプログラムをすすめることが基本であるのかを学んではいても、実践の場ではお互い手探り状態でした。しかもプログラムの計画、進行も経験不足です。何もかもが初体験の二人がプログラムをすすめていくには、お互いを理解し合い、何度も何度も納得がいくまで話し合い、テキストを読み合いました。それでも毎回カンファレンスでは反省点ばかりでした。だからこそ、学びが大事だと思い、研鑽の場を求めました。

平成28年の現時点でCFRC主催の、養成講座を受講したファシリテーターは、1,000人を数えます。NP-J認定ファシリテーターは600人近くいます。ですから、プログラムを実施する場合、経験者と組みやすくなったと言えます。

CFRCにファシリテーターの要請があった時は、実習生の場合はできるだけ経験のあるファシリテーターと組めるようにしています。

<先輩ファシリテーターに聞きました>

☆実習生と組む時に心がけていること

- 対等な関係を保つこと
経験者はいつも初心にかえることを忘れず、実習生と同じ気持ちでNPに臨む
遠慮しないで本音をだせる関係になる
- お互いをよく知る
お互いの考え方や思いを出し合い、価値観の違いを理解する
- 経験者だからと言って出しやばらないこと
実習生の意見をまず聞き、経験者の意見を押し付けない
そして、「自分に謙虚であれ」を心がけてします。



いずれにしても、コが実習生であっても、気心のしれたコであっても、コ・ファシリテーターであることの安心感は変わりません。お互いに学んでいきましょう。



日本発達心理学会で初、NPプログラムを紹介

2016年4月29日、小雪の舞う北海道大学での発達心理学会で、早稲田大学向後研究室企画のシンポジウム「日本におけるペアレント・トレーニングの実践プログラムとその背景理論」がありました。アドラー心理学に基づく親教育プログラム「Passage」に並んで、当センターでは「NPプログラムの特徴と実践活動」を紹介する機会をいただきました。近年日本では子育てに対する知識の習得や親性を育む機会がないまま親になるケースが少なく、他者に対する共感や養護性の獲得など、人間性の発達を目的としたペアレント・トレーニングが求められていることによる企画でした。

「Passage」は、グループ体験に基づく育児学習講座で、親が子どもの自由を最大限に認めながら共同的感情を養い、自立を促し、社会と調和して責任をとり暮らすように勇気づけていく手法を学習するもので、NPプログラムの学習経験をさらに活かせる有効な講座とのことでした。



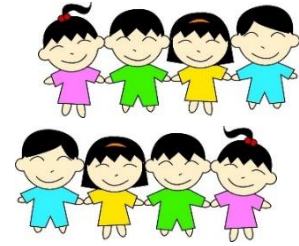
「NPプログラム」はファシリテーション技法を用いて、互いの価値観を尊重し、成人学習理論に基づき親自身の経験とアイデアを交換しながら子どもや子育てを学び合い、親としての自信をつけていく機会を提供するもので、終了後にも支え合う関係を作ることが期待されるプログラムであることなどを紹介しました。プログラム終了後には、参加者のほとんどが子どもへの態度や家族関係が肯定的に変化し、親としての自信やゆとりを得たことを記述していること、プログラムへの評価が非常に高いことも報告しました。(伊志嶺)

理論的な裏付けや他の親プログラムの米国内での評定比較の紹介、熱心な質疑応答で2時間があっという間でした。今回の2つは、いずれも参加型のプログラムです。両者を比較すると「NPプログラム」は親の自己決定の自由度が高く、「Passage」は終了後家庭での話し合いに子どもも参加できる年代で高い効果が期待されるようです。フローアからは、対象者やファシリテーター養成講座などに質問が及び、プログラムへの関心の高さが伝わってきました。配布したNPのパンフレットも参考になったと思います。向後先生からはプログラムを父親にした場合の効果についての質問やプログラム参加前後の調査への提案があり、次の方向性が示されました。日本社会にあった多様なプログラムが準備される必要性やそれぞれのプログラムの特徴や効果を明確にしていくことの大切さを学ぶことができました。(永田)

現在、様々な理由により家族から離れて児童養護施設で暮らしている子どもが、全国でおよそ 35,000 人います。一方で、その現実に関心をもち、支援をしたいと思っている大人が大勢いて、多くの支援活動が行われています。中でも、最も遣り甲斐のある支援は里親としての支援でしょう。それは子ども達にとっても最善の支援であります。ただ、いろいろな事情により、里親になりたい気持ちはあっても実際にはなかなかできない、という大人がいて、いろいろな事情により里親支援制度が受けられない、という子ども達がいるのも事実です。そんな大人達と、子ども達を結びつけるためにあるのが、アメリカで始まったレインボウ・プログラム（ホームページ参照 <http://kodomokatei.com/>）を活用した、ほんのちょっとだけ里親的な **ブチ里親レインボウ** というボランティア活動です。

1. **ブチ里親レインボウ** の目的は・・・

1. 里親未満、寄付以上の援助ができる仕組みを提供する
2. 子ども達に安心してありのままの自分を表現できる場を提供する
3. 子どもが実家族についての理解を深める手助けをする
4. 子ども達に感情について教え、上手な表現方法を練習させる
5. 周囲に信頼できる人がいることに気付かせ、上手に相談する方法を練習させる
6. 子ども達の自尊感情や仲間意識を育てる
7. 現実を受け入れて前向きに生きるとはどういうことか、子どもが理解するのを助ける



2. **ブチ里親レインボウ** の特徴は・・・

1. 22歳以上であれば誰でもボランティアができる
2. セッションはマニュアルに沿って進める
3. 担当コーディネーターが最初から最後までサポートをする
4. 交通費、オヤツ代は支給される
5. ボランティアさんの家族には直接の影響がない
6. 子どもの実親から直接影響を受けることはない
7. グループで行うので、子どもとの相性にあまり左右されない
8. 施設内で実施するので、子ども達はリラックスして参加できる
9. カウンセリングでもヒーリングでもない

3. **ブチ里親レインボウ** を体験したことで・・・(終了後の感想)

1. 問題を起こす子どもへの理解が深まった
2. 里親になる心の準備ができた (体験者のうち2人が里親になっています)
3. 自分自身への理解が深まった
4. 活動終了後も子どもと交流を楽しんでいる
5. 傾聴の練習ができた
6. 子ども達に元気をもらった

4. **ブチ里親レインボウ** で大切なことは・・・

何よりも一番大切なのは、今以上に子どもを傷つけない事です。具体的には約束通りに会いに行き行ってあげることです。なぜなら約束が破られた時、特に施設の子どもは自分が悪かったからだ、と考えやすいからです。程度の差はありますが、どの子どもも、実親が子どもを生んで育て上げる、という約束を守れなかったのは、何かは分からないけれど自分の何かが悪かったからだ、と考えています。そのため、セッション中に無防備にありのままの自分を出してしまったら、また大人に捨てられるのでは、と不安に思う傾向があるのです。実際に活動が始まると、多くの人が、子どもがわんぱく過ぎて思うようにセッションが進まないとか、私は何のためにこの活動をしているのだろうか、とか、本当に子ども達の役に立っているのかな、と悩み始めます。そんな時、ただ約束通り会いに行くだけの事が、子ども達にとっては大きな意味がある事を思い出して欲しいのです。それは、「あなたがどんな子どもであっても私は見捨てませんよ。」というメッセージを体現することで、これによって、子どもは「私が私らしくしていても会いに来てくれる大人がいるのだから、家族が壊れてしまったのは私のせいではなかったのかも…」と思いはじめることができるのです。

職員さん方によって手厚く育てられている施設の子ども達ですが、どうしても外の世界の大人との交流が限られてしまう傾向があります。

ブチ里親レインボウはその機会を子ども達にプレゼントするものでもあり、それは子どもの将来をかえてしまうくらい大きな可能性を秘めています。そんな **ブチ里親レインボウ**を一人でも多くの子どもに届けられるように願っています。



スマホが生活の中にはいりこみ、赤ちゃんがぐずった時に便利と言って「あやしアプリ」が登場するようになった昨今です。赤ちゃんが大人のあやしかけに合わせて手足を動かしたり、語りかけた大人がその様子を見て、笑顔でうんうんと頷いたりして応答し合うやりとり・・・以前は何気なく行われていた育児の様子ですが、核家族になった現在では、その意味も方法も、意識的に伝えていく必要があると思われます。「NPO 子ども家庭リソースセンター」では、親と赤ちゃんの「やりとり」がコミュニケーションに繋がるはじめの形であることに注目し研究しています。

今年度は「赤い羽根共同募金地域配分」の助成をいただき、親子講座（年間5回）と支援者講習（年間2回）を行っています。

親子講座

当事務所に、北区にお住まいの0歳の赤ちゃんとお母様方数組にお集まり頂き、約1時間の講習を実施します。赤ちゃんは生まれたときからコミュニケーションをとる能力が備わっています。その力を発揮しやすいように、赤ちゃんとのかかわり方のコツをスタッフから伝え、実際にやってもらいます。赤ちゃんのペースに合った遊びを具体的に伝えながら、子どもと視線をあわせ、子どもが送ってくるサインを読み取り、「やりとり」を楽しみます。たとえば、目が合いにくい時は親子の姿勢のとり方やタイミングの合わせ方などを確認していきます。講座ではこんな会話が聞こえてきます。

ちょっと待っていると、反応しますよ。あ、おててが動いていますね。(スタッフ)



〇〇ちゃん、よく見えますね。(スタッフ)

あまり子供のペースに合わせて目を見て手遊びしたりしていなかったのでお話が聞けてよかったです。(母)

支援者講習

子育て支援者が、乳児期の支援の方法を学び、0歳児の親子にコミュニケーション・スキルを伝えられるようになることを目的として8月20日に「北とびあ」研修室で支援者講習が行われました。

福川理事長の挨拶に続き、永田講師が講習を担当しました。当日は43名の受講者をお迎えしました。保育士さん、児童館職員、助産師さん、栄養士さんと子育て支援の現場で日々子どもを見つめている方たちの熱心が響きました。終了時にアンケートに答えていただきましたので、その「声」の中からいくつかを記載します。

0歳児、特に1～2ヶ月の低月齢でもこんなに人とコミュニケーションをとれることがわかって驚いた。仕事の上で乳児の能力を自覚しながら接していきたいと思った。

若いお母さんたちは、我が子はかわいいが、どのように関わっていいのかわからず、悩んでいる方が多いので、個々に支援していきたい。



赤ちゃんの能力のすばらしさをビデオを見て学びました。お母さんにも赤ちゃんにも嬉しい関わり方を知ることができたので、子どもに合わせて遊び、タイミングを合わせて、何よりも“待つ”ことを忘れずに親子に関わっていききたい。



「子育ての楽しさがふくらむ」ー0歳の赤ちゃんとのコミュニケーション

ー東京都児童館出前講座の受託ー

永田 陽子

幼児や学童が対象だった都内の児童館が、乳児親子まで利用の窓口を広げ子育てひろばの役割も担う方向に進んでいます。赤ちゃん対象の企画はまだ戸惑いがあるようですが、これらの児童館をサポートしているのが東京都児童館支援係です。要請のあった児童館で乳児親子向けの講座をする『出前講座』の依頼を今年度当会が受けました。子どもの育ちに重要な愛着形成につながる内容をとの依頼です。親が子育てに前向きになれば虐待予防も可能と予防的、長期的視点の企画です。出前講座での学びを講座後も児童館の方が活用できるようにとのねらいもっています。2004年カナダで見学した親子向けのアウトリーチの[子育て支援者版]アウトリーチです。9区2市1町の児童館から依頼を受けています。

この受託に驚きと喜びを感じました。驚いたのは、東京都が「子育て支援は0歳の親子関係からスタートする」との考え方で事業を進めていることです。合計特殊出生率1.57ショックから国が子育て支援を始めて(1994年)20余年です。親の不安解消、孤立予防対策は実施されてきましたが、親子関係形成支援の視点は前面に出ていませんでした。担当の方は、この新たな視点での事業を上司のご理解を得ながら、0歳の重要性に注目し推進しています。この先駆的な事業をセンターは身の引き締まる思いでお受けしています。

嬉しいのは、日本の地域や大家族で当たり前に使われていた赤ちゃんとのコミュニケーション(人育ち唄)を0歳の親子に届けられること、その担い手が増えることです。さて、実際にやっつての効果は、参加した親や児童館の先生の感想に十分に語られています。

親の感想



- ・(2ヶ月男、第1子) 参加してとても良かったです。まだ、幼くて眠ってしまったが、幼いうちに知れて良かったことが多かった。お世話が毎日大変でしたが、今日参加して子育ては楽しいと思います。
- ・(4ヶ月男、第1子) いろいろなあやし方を教えていただき参考になりました。
- ・(7ヶ月男、第1子) やる時に目を合わせることや声掛けの大切さがわかりました。今後の子育てに役立つことばかりでとてもためになりました。
- ・(9ヶ月女、第1子) 自分では気づかない子どもの動きに先生が気づいて下り、「あっそうか。この動きは私の真似をしているのかと初めて知りました。まだまだ子どもをじっくり見れていないと再認識し、これから少しでも時間を作って、ゆっくり関わりたいと思いました。
- ・(10ヶ月男、第1子) 家で子どもとどう遊んでいいかわからなかったのが、為になりました。

職員の感想



- ・自分の声掛けで母が変わることに感動し、良い勉強になった。学童の子ども達も共通なのだと思う。
- ・2カ月の子が反応するのを見て楽しんだ。自分も取り入れてみたいと思った。
- ・子を「観察する」のは小さな反応を観ないと見過ごしてしまう。口遊びをちゃんと子どもがやっていた。1時間あっという間で、楽しめた。
- ・理論を伝えると親がやる気になるときいたのが本当だった。
- ・グループでやる意味は?——他者を観る機会。やれた子を皆で喜び合い、互いに育ち合う。
- ・子が小さく反応しないと思っていた親が実際にやり子どもが反応すると、積極的にかかわる姿が見られた。終わった時の母の表情が明るくなった。
- ・個別に親に伝える必要性を感じた。
- ・私自身も目からウロコの内容だった。





2016年スケジュール

1. NP 体験プログラム オリエンテーション 年4回

第1回 2016/4/17(日)終了、第2回 2016/7/10(日)終了、第3回 2016/10/16(日)終了、第4回 2017/1/29(日)募集中
 時間は全て 13:00~16:00、会場は CFRC。受講料 2,500 円(テキスト代 500 円含)。定員 20 名。申込は、開講 2~1 か月前に CFRC 事務局まで。

2. NP ファシリテーター養成講座 年4回

(1) 通常講座 第1期 2016/5/21(土),22(日),28(土),29(日) 講師: 永田陽子 終了
 第2期 2016/8/20(土),21(日),27(土),28(日) 講師: 榎田紋子・石川文字 終了
 第3期 2016/11/19(土),20(日),26(土),27(日) 講師: 木村弘美・大豆生田千夏 募集締切
 第4期 2017/2/18(土),19(日),25(土),26(日) 講師: 福川須美 募集中

(2) 出張講座 近年は、長野県上田市、宮城県石巻市、秋田県秋田市、佐賀県みやき町、横浜市港北区で開催
 ※時間は(1)(2)とも、前半2日間で9:30~16:30、後半2日間で9:30~17:00、(1)の会場は CFRC。受講料 70,000 円(テキスト代 2,000 円および教材費は別)。資格申請される場合は、資格申請料 10,000 円が別途必要。定員 12 名。申込は、開講 3~1 か月前に CFRC 事務局まで。

3. NP アフタープログラム 年2回 ※養成講座終了後、NP プログラム未実施の方は、3年ごと(推奨2年)に受講ください

第1回 2016/7/24(日)終了、第2回 2017/2/5(日)募集中
 時間は全て、フォローアップ研修は 9:30~12:30、ステップアップ研修は 13:30~16:30、会場は CFRC。受講料各 3,000 円。定員各 20 名。
 申込は、開講 2~1 か月前に CFRC 事務局まで。NP プログラム実施にブランク(~2年間)のある方は、特に受講をお勧めします。

4. 子ども家庭リソースセンター「NPの会会員」について

NP ファシリテーター養成講座修了者は、全員加入です。今年度 2016 年度年会費未納入の方は、お早めにお手続きをお願いします。
 年会費は、1,000 円です。会員期間は 4 月から翌年 3 月までで、年度更新になります。(毎年年会費のご案内を会報と一緒にお届けします。)
 会費は、NP の会会員のへのサポートを強化、質問・相談に随時応じます。NP のホームページの運営、会員の NP の実践をバックアップするために使われます。他に、年2回の会報発行、会員対象の NP フォーラムの開催、会員同士の交流、情報交換、ファシリテーション技能のステップアップを図る研修等の実施、などを予定しています。また、事務所を NP の会会員にも開かれた場になります。入会手続きは、CFRC 事務局まで。
 ※転居ほか、住所や連絡先等がかわる際には、CFRC 事務局まで必ずご連絡願います。

5. レインボウ・ファシリテーター (A) & コーディネーター (B) 養成講座 ~喪失体験をのりこえる子どもたちへの援助~

(A) 2017/3/4(土) 10:00~17:00 受講料 10,000 円 テキスト代 3,000 円 (修了後は、レインボウ・ファシリテーター有資格者となります。)
 (B) 2017/3/5(日) 13:00~16:00 受講料 5,000 円 テキスト代 1,000 円 (受講対象は、レインボウ・ファシリテーター有資格者です。)
 会場は全て CFRC。定員は各 10 名。講師: 榎田紋子 / 伊志嶺美津子 募集中 ※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。

6. 支援者対象研修 0歳児の愛着を育てる『コミュニケーションスキル』講座 (A)、1歳からの関係作り『気になる子』への対応講座 (B)

(A) 2017/3/4(土) 10:00~12:30 参加費 800 円(資料代含む。但し、北区在住・在勤者は 500 円)
 (B) 2017/3/4(土) 14:00~16:30 参加費 2,000 円
 会場は北とびあ 701 会議室(王子駅徒歩 2 分)。定員は各 50 名。講師: 永田陽子 募集中 ※詳細はホームページ、事務局でご確認ください。

●トポスの会(自主的なファシリテーターの会) 年4回

2016 年 6 月、9 月、12 月、2017 年 3 月、に開催。全て日曜日。時間は 13:00~16:00、会場は CFRC。当センターの NP ファシリテーター養成講座修了者は、どなたでも参加できます。(当日会費会員 300 円、非会員 500 円)。トポスの会に関するお問い合わせは、CFRC 事務局まで。

寄付のお願い

【寄付金お振り込み先】 ゆうちょ銀行 口座記号・番号 00130-4-651522 加入者名: NPO 子ども家庭リソースセンター

~ ご質問、お問い合わせ等は、下記の CFRC 事務局まで ~



NPO 法人子ども家庭リソースセンター (略称: CFRC)

○所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドム王子 1 階 ○TEL/FAX 03-6755-2855
 ○E-mail info@kodomokatei.com ○URL <http://kodomokatei.com/>
 ○交通機関 JR 線王子駅 北口改札から徒歩 8 分、地下鉄南北線王子駅 5 番出口から徒歩 7 分

編集後記 今回のおたより、いかがでしたか? ぜひ感想・ご意見をお寄せください。今年の 6 月 12 日(日)の総会にて新しい理事を 2 名迎えて、記事の内容も充実するよう一同張り切っております。(S)

編集・発行: NPO 法人子ども家庭リソースセンター 発行日: 2016 年 10 月 31 日

